

その他の金融業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物 (小)	事故 故 の 型	労働者 規 模
2017	1	11~ 12	エンジン起動後、スーツの上着を脱ぐため運転先側のドアを開けたまま、車外へ出る。車のギアがバックに入っていたままで、車がバックしドアに当たり転倒し、ドアと隣の車に挟まれた。自動車ローンのお客様の車の引き渡しのためお客様先へ出向き、車を動かした際に発生した。	50	221	7	50 ~ 99
2017	1	16~ 17	車で走行中、対向車がスリップしてセンターラインを越えて衝突してきたため、頸部や胸を負傷した。	25	231	17	50 ~ 99
2017	2	19~20	アパート付近の道路で、調査業務のため道路を歩行中、外灯等がない暗い環境の下、道路橋の開梁に気付かず足を踏み外し、水路に落下した。落下に伴い、左足膝と右胸肋骨を打撲し、右手に擦り傷を負った。その結果、右胸肋骨を最低3本骨折した。	64	414	1	100 ~ 299
2017	2	12~13	4Fから2Fへ階段を使用して向かう途中、踊り場に着く下から3段目から踏み外し、右斜めの方向に臀部から転落し、腰を痛める。	35	413	1	10 ~ 29
2017	5	15~ 16	使用する工具の準備作業をするため、ビル内の階段を工具を持ち移動中、段差で躓き転んだ際に手を着いて強打した。	53	413	2	1~ 9
			バイクで営業活動のため得意先へ向かう途中、信号機のない交差点において、左方向より直進してきた軽ワゴンとぶつかった。被災者				

2017	6	10~ 11	側に一時停止の義務があり、両足で停止し確認したが、左側が見え難いため徐行しながら直進したところ、事故になった。一時停止線が車道本線より手前にあり、その場所では十分な安全確認が出来ないこと、及び左側の駐車場にパワーゲートがあり、駐車中で左方向が見え難かったため、かなり手前にある一時停止線との2段停止で進んでしまった。ミラーの位置が悪いことと、事故当時、パワーゲートで加害者側からもバイクが見えづらく発見が遅れたことは、加害者・警察も認めている。バイクの速度が出ていなかったため、跳ばされず車に押される形で転倒した。	28	231	17	10 ~ 29
2017	6	12~ 13	お客様の自宅に訪問をして帰社する際に、歩道を歩いていたところ、進行方向からバイクが歩道上を走ってこちらに向かってきた。危ないと思い、歩道の左側にある垣根ギリギリまで避けたものの、加害者はよそ見運転をしていた為に被災者の存在に気付かず、衝突してそのまま逃げ去った。その影響で、今までどこも痛くなかった腰に痛み、右足の付け根から右足の甲・指先までに痺れと痛みが出てしまった。今まで腰や右足の既往症は一切なく、あんま・指圧・マッサージ等にも通った事もない。医師の診断によると、腰椎ヘルニア、右足下肢の痺れと痛みとのことである。	26	231	17	1~ 9
2017	7	14~ 15	支店2F事務所内にて、書類を見ながら歩いていたため、足元のカゴに気付かず前のめりに転び、左足の甲を骨折した。	58	416	2	10 ~ 29
2017	10	9~ 10	宝くじ売場で閉店準備中、売場の出入口ドアを閉めるときに左親指の爪を挟んだ。	42	419	7	100 ~ 299
2017	12	11~12	改築工事において、大工工事作業中に脚立から転落し、作業台に胸を強打し、ろっ骨を骨折し、肺も負傷した。	66	371	1	10 ~ 29
							10

2017	12	10~11	敷地内で30kgの米袋を15kgの米袋に分ける作業をしていたところ、 中腰の体勢から立ち上がろうとしたときに腰を痛めた。	47	921	19	~
							29

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to : [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_06.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html)